

# 切り紙を利用した絵付けマグカップ

## ◆題材のねらい

本題材は当初「器と装飾」をテーマに、マグカップを制作し装飾の図案を考え下絵付けを施すというものだったが、現在の勤務校で本題材に取り組んだところ、絵付けの図案を構想する段階で課題が発生した。

絵付けの図案を考え、アイディアスケッチをするように促すと、まったく何も思いつかずにペンを置いてしまうか、見本として提示した作品をそのまま真似するか、生徒の知る既存のキャラクターやブランドのロゴを描こうとするかのいずれかであった。

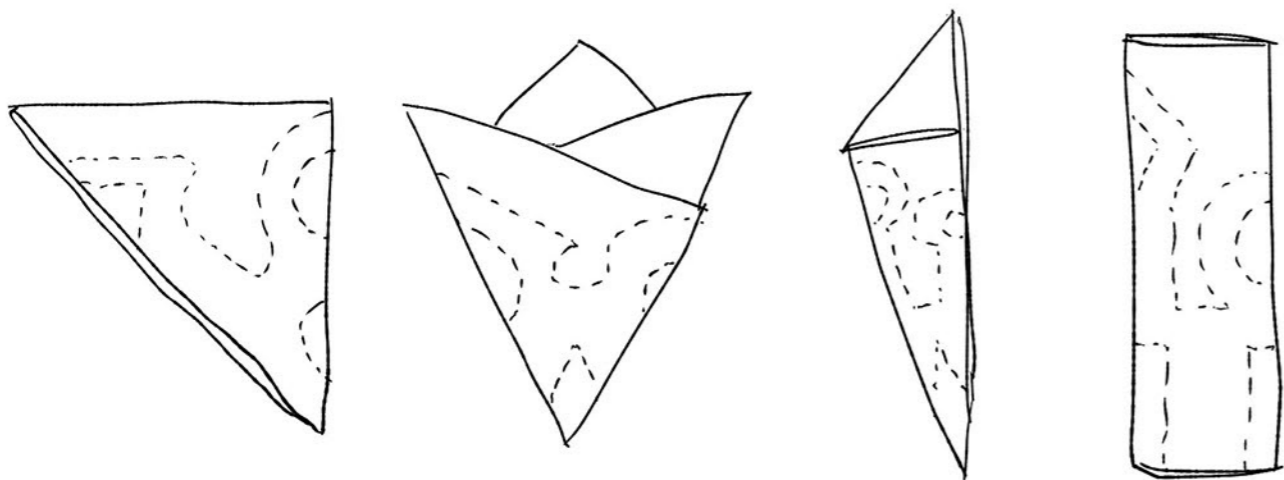
これは絵付けに限らず、染色や木材工芸などで装飾等の図案を構想する場面になるとほとんどの生徒が上記のような反応であった。

現在の勤務校において工芸を選択している生徒は、絵を描くことについて苦手意識をもっている生徒が多く、工芸を選択した理由についてアンケートを実施すると「絵が苦手であり、ものづくりの方が好きだと思ったから」というような内容のものが多く見られた。

そのため、切り紙によって偶発的にあらわれた模様をマグカップの絵付けの図案として利用することを考えた。

## ◆手順

まず、切り紙の練習から始める。はじめの折り方を4種類ほど紹介し、まずは全員で決まった形に折り、決まった形に切る。



三角折り

三つ折り

三角折り2

四角折り

折って、切るという単純な工程で複雑な形ができるため、生徒は予想よりも夢中になって取り組んでいた。

手先の器用な生徒に対しては、カッターを使用しなければ切れないような複雑な切り方を紹介する。難易度別に用意することで足並みを揃えることができた。



見本の通り切ることに飽きてきた頃に、今度は「適当に、きまぐれに」切ってみるように促す。面白がって細かく切ってみたり、わざと大きく大胆に切ってみたりと反応は様々であった。

オリジナルの切り紙がいくつかできあがってきたところで、「考えながら切ることによって、意図した模様を作り出す方法」をいくつか紹介したが、こちらは成功した生徒はほとんどいなかった。



切り紙が出来上がったら、マグカップにどのような配置で絵付けをするかレイアウトを考える。



鉛筆で図案を転写したら、下絵の具で彩色し、透明釉を掛けて完成となる。